

三井物産環境基金~未来につながる社会をつくる

2018年度 活動・研究助成の講評

案件選定委員会

今回の三井物産環境基金の募集の方法は、かなり大幅な変更が行われました。これまでは、応募者が自由に記述を行うことが大原則で、その中で、自らの主張をいかに魅力的に埋め込んだ申請書を書くか、それが、採択に至るかどうかが、大きな要因でした。

しかし、この状況は終わりました。なぜなら、SDGsが2015年9月に決まり、パリ協定が同12月に合意されましたが、この状況は、個々の問題について何か変わった、例えば、新しい問題が発生したために新たな対応が必要になった、という程度の理解では不十分で、地球環境に対する見方や解決のための発想方法を拘束するような、極めて大きな方向性が定まったように考えています。

一言で言ってしまえば、「人間活動が増大し、その地球環境への影響が、地球の持っている物理的な限界を越すレベルになり、悪影響を出すような状況になった」と理解しなければならないのだと思います。

SDGsは、歴史的に見れば、2000年に始まったMDGsの後継ではありますが、MDGsの最終的な目的が、貧困の克服にあったと考えられるのに対して、SDGsは、地球環境の限界に十分配慮した上で、人類が現在もっている多くの問題をなんとか調和的に解決する手法を見出すことが大目的だと考えると分かりやすいかと思います。

国連総会で合意されたSDGsの原題名は、「Transforming Our World」です。「現時点で地球上に存在している人間社会の構造をすべて変えなければ、人類が持続的に存在することは不可能である」という認識に基づいて、あらゆる人間活動を考え直せ。具体的には、5Ps（People、Planet、Prosperity、Peace、Partnership）の形態を変えることで、世界を変えることを目指せ。これがSDGsの思想です。

となると、申請書に書かれる提案は、そのプロジェクトによって、5Psのそれぞれのようになるとは、これを具体的に説明し、その結果として、そのプロジェクトが最終目的としている形態の「社会」が成立するようになり、結果的に地球上の人類世界が変わる、というシナリオを書いていただくことを期待しました。具体的には、それを記述していただくために、A3の用紙を埋めていただくことをお願いしました。

今回、このような要求があることを認識されていたと思われる応募案件の割合は、半数以下だったと判断しております。A3の用紙をどのように埋めるのか、勿論、苦勞されたと思いますが、恐らく、「なぜこんなことが要求されるのか分からん」と疑問に思われた方が多かったように推測しますが、これが、今後、何を提案する場合においても、こと地球環境に関連する事項については、唯一のやり方になるのではと判断しております。是非、このような発想法に慣れていただくことが、自らの提案がより具体的なイメージを示すことになって、結果的に、説得力を増すのだ、というご判断をいただきたいと思っております。

次回の応募における、説得力のあるご提案を期待しております。